

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135132		
法人名	社会福祉法人 いわこ会		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	長崎県長崎市三京町1531番地1		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成31年2月12日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には周囲一面が桜に囲まれ、自然環境が豊かな施設です。毎月イベントを行っています。2週間に1回かかりつけ医による訪問診療があります。週に1回訪問看護に利用者様の健康状態をチェックしていただいています。かかりつけ医及び訪問看護と24時間連絡体制が取れ、特変時には往診に来ていただいています。週に1回訪問歯科及びPTに来ていただいています。毎月さくらの里便りを発行し、入居者様のご様子をお伝えしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、桜の木に囲まれた静かな環境にある。利用者の居室は、趣味の手芸材料や好きな物に囲まれ、あたかも自宅にいるような空間となっている。職員は、外食等日常的に外出の機会を増やす取組を行っている。敬老会は、郊外のレストランを貸し切り、全員で楽しいひと時を過ごしている。この他夏祭りや運動会、ボーリング大会等、さまざまな行事を企画、実行しており、ホームでの生活が楽しく充実したものとなるよう心を配っていることが窺える。医療面では、往診や訪問看護、訪問歯科や訪問リハビリ、マッサージ等を支援し、利用者と家族の安心に繋がっている。職員は、年1回法人本部へ自己申告書を提出し、設備や労働環境等についての要望を伝えている。また施設長との面談も実施しており、職員の意見を積極的に運営に反映する仕組みを構築していることは、特筆すべきである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに関わる法令の意義を正しく理解し、ユニット会議や申し送りの中で話し合いながら、職員間で共有し、実践につなげている。	施設長は、新人職員にホームで作成した資料を使って、理念の意味や目的について話す機会を設けている。職員間ではユニット会議や申し送りの際に理念を再確認する話し合いを行っており、利用者の思いに寄り添い支援する姿勢から、理念を共有して実践につなげていることが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に民生委員の方にご参加いただいている。また、買い物や外食で近隣の施設をりようしている。	地区の祭への参加や日常的に買い物や外食で近隣の大型商業施設を利用するなど、地域との交流を図っている。ただし、ホーム行事においては、民生委員の参加はあるものの、法人内での利用者同士の交流に留まっており、地元の住民と触れ合う機会が少ない現状にある。	利用者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう、民生委員などの意見や情報を得ながら、今後更に地元住民と交流できる取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のプライバシーに配慮しながら、ホーム見学やボランティアの受け入れを行ったり、認知症高齢者についての理解を得られるように、グループホーム協議会研修を一般の方向けに行っており、包括との合同研修も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者の方からの貴重なご意見を基に、ホーム内で検討会議を実施。さくらの里便りを通して、ご家族へ今後の方針としてお伝えしている。	会議は年に6回規程のメンバーを満了開催している。議事録から利用者の詳細な状況報告や行事内容の他、参加者からの積極的な意見等が確認できる。前回の評価後、毎月発行しているホーム便りに議事録の要旨を添付し、家族へホームの活動状況を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは連携を密にとり、不明点の情報収集に努めている。又、介護相談員の受け入れを行い、利用者と接する機会を設けている。	市の担当課の職員による定期的な訪問や介護相談員の受け入れの他、行政から案内がある研修を職員が受講し、不明な点を問い合わせ情報を得るなど連絡を密に取っている。施設長がグループホーム連絡協議会の役職に就き活動しており、福祉分野における協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは原則として、身体拘束廃止を推進している。ユニット会議や研修会にて、身体拘束への正しい理解を持ち、ケアに取り組んでいる。同時に身体拘束を行わないリスクについても、ご家族へ説明している。	身体拘束廃止に向けて委員会による2ヶ月毎の協議や指針の整備、職員間の研修を行っている。契約時家族と身体拘束をしないことに関する説明を行い同意書を交わしている。現在一人の利用者に対して個別のセンサーを利用しているが、口頭での説明のみとなっている。	家族へのセンサー利用についての説明と同意は、口頭だけではなく、文書による同意書を交わしておくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、事業所内で報告を行い虐待防止に努めている。職員の介護方法、言葉遣いなど、ミーティングや連絡帳を利用し、再確認する機会をつくっている。職員同士で注意し合える雰囲気作りにも努めている。		

グループホームさくらの里（銀杏ユニット・金柑ユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会やグループホーム協議会の会合で情報収集を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び改定の際は、必ず説明を行い、疑問点を解消できるように対応している。また契約書や同意書等にサイン、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時・カンファレンス・運営推進会議でお聞きした要望を職員で検討し、反映している。また運営推進会議で挙げた要望及び解決策を、さくらの里便りを利用して、全てのご家族へお伝えしている。苦情・相談窓口を設け、目安箱を設置している。	家族がホームを訪れた際には、要望がないかどうかを尋ねている。遠方の家族へは、電話で近況を報告した際に、要望を聞き取っている。聞き取った意見は、連絡帳に記入し、職員間で共有している。月に1度のホーム便りで、行事や外出の様子を写真付きで家族へ伝えて、来所した際の会話のきっかけを作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回、個人面談を行っている。2ヶ月に1回ミーティングを実施し、事前にアンケートをとって問題提起し、話し合っている。飲みニケーションを開いている。	施設長は職員の個人面談を実施し、悩みや要望を聞き取っている。更に施設幹部職員と法人役員との話し合いがあり、現場の意見を伝えている。感染・事故防止委員会があり、発生事例の分析を行っている。会議の前には、職員を対象にアンケートを実施し、議題に反映する等、職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回、全職員が本部に自己申告書として意見や要望を提出し、各々に回答をいただき改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が率先して研修に参加することにより、職員の研修参加率が高まっている。また、参加できなかった職員も情報共有が出来るように、ミーティングを利用し報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修や交流会に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前情報やご家族からの情報を基に、コミュニケーションをとり、日常の会話やサインから本人様が困っていることを考え、意向に沿えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に悩みや不安をお聞きし、入所後は、利用者様の体調の変化等ささいな事でもご家族の面会時や電話にて報告を行い、相談しやすい関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のニーズを明確化した上で、現状のグループホームで対応できるのかどうかを判断している。また、本人様に適切な介護施設を検討し、ご家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主導となる介護をせず、料理作りや洗濯物干しなどの家事を一緒にすることで、隔たりなく生活していただけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に行事に参加していただき、本人様の現状をさくらの里便りや面会時及び電話にてお伝えしている。ご希望があれば、ご家族の宿泊も可能としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	問題がない限り、本人様と親交のある方との面会は承諾している。馴染みのある場所でのイベント開催があれば、計画を立て他の利用者様と一緒に連れ出している。	生活歴は、その都度書き加え、3年に1度更新している。年賀状を出す利用者や携帯を使用する利用者もいる。以前住んでいた地区の夏祭りに、ホームから出掛けており、関係継続に向けた支援を行っている。生け花、手芸や編物、音楽や絵画を趣味とする人には、それぞれに楽しむことを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格を把握して、職員が間に入り相互関係がスムーズにいくように努めている。ソファの配置や席替えも随時検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり退所に至った場合、退院後の受け入れ先として、同法人のショートステイや他のグループホームを紹介している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や会話の中で本人様の希望を探り、ご家族から得た情報を加味した上で、可能な限り希望に添えるよう対応している。	買い物に行きたいという希望が多く、施設長が同行している。食べ物の嗜好調査を実施し、牛乳をジュースに変える等個人毎に対応を行っている。起床と就寝時間は、自由である。食事の際、他の人の視線が気になるという利用者の気持ちを尊重して、一人の場所を用意する等、本人本位に支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の利用者様情報をケアマネージャーやご家族からいただいている。また、ご自宅を訪問し、ご本人様の様子を拝見させていただくケースもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日全ての利用者様と関わりを持つことを心掛け、バイタルチェックにより体の変化を見逃さないようにしている。また、PTと連携し、ADLを維持できるように立位や歩行訓練を行い。天気がいい日には散歩へ出掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の各担当者が主となってアセスメントを行い、ミーティングやカンファレンスで意見を出し合った後に介護計画を作成している。	利用開始から3ヶ月の計画を作成後、長期6ヶ月、短期1ヶ月の支援目標による見直しを行い、その都度本人・家族の希望を聞き、同意を得ている。担当の職員が計画を作成し、最後にケアマネージャーが確認を行っている。ケース記録・連絡帳・業務日誌を基に、担当者がモニタリングを毎月実施し、より現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳及び健康管理表を活用しながら、職員間で情報共有を図り、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族のご希望に添えるよう、可能な限り対応している。		

グループホームさくらの里（銀杏ユニット・金柑ユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援で近隣のスーパーへの買い物へやおやつを食べにファミレスに出かけたりすることがある。また、民生委員の方のご面会があり、介護相談員の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族と相談しながら、当ホームのかかりつけ医へ変更するかどうかを検討していただき、変更できない場合は、通院や状態の電話報告にて連携を図っている。	入居時に原則、協力医をかかりつけ医とすることを説明している。2週間に1回の往診と、週1回訪問看護師が健康状態を確認している。訪問歯科や訪問リハビリも受けている。従前のかかりつけ医等に家族が同行した場合は、結果内容の報告を連絡帳に記載し職員間で共有している。薬剤の書類やお薬手帳及び薬の管理も徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問時に利用者様の情報をお伝えし、体調不良や医療面でわからないことは連絡し指示をいただいている。訪問看護との連絡体制は24時間可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に随時、ソーシャルワーカーや看護師から病状説明を受けている。ご家族が面会に行けない場合に必要となる物品などは、ホームで対応させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の方針をお伝えしている。必要があれば、ご家族の意向に沿えるようにかかりつけ医を含めて協議している。	ホームは看取りを行わない方針であり、重度化した場合の指針を入居時に家族へ説明し、同意を得ている。利用継続が困難になった場合は、家族の意向に沿えるよう、かかりつけ医を交えて他施設への入所や医療機関への入院などを説明し、出来る限り協力を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や夜間帯特変時のマニュアルを作成し、事故に備えている。また、救急救命の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月消防訓練を実施し、その内年2回は消防署員立会いの下で実施している。半年に1回専門業者による消防設備点検を行っている。	毎月、通報・避難・消火による種別毎の消防訓練を実施している。年2回消防署が立ち会っており、内1回は夜間想定である。前回の評価後、避難訓練を運営推進会議と同日に実施し、市の職員と民生委員が立ち会っている。自然災害の防災マニュアルは現在作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、人生の先輩として尊敬する気持ちを持って話を傾聴したり、対応をしている。個人記録などは保管場所をカーテンで目隠しを行い、プライバシーに配慮している。	職員に守秘義務の誓約書提出を義務付けている。利用者の個人記録は、別室に保管している。薬は、外からは見えない場所の鍵付きの引出しに保管している。利用者の使用するパッド類は、居室に保管し、他人の目に付かないよう配慮している。ただし、夜間のみ使用しているポータブルトイレを昼間もそのまま居室に置いている。	利用者の羞恥心に配慮し、夜間のみ使用しているポータブルトイレの取り扱いについて、工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話から本人の思いを汲み取り、希望に沿った自己決定ができるように、選択肢をあげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間など対応できる範囲で、利用者様の生活リズムに合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問美容室を利用させていただいたり、もしくは希望に合わせて美容院まで送迎を行っている。また、行事によってはお化粧していただき外出されることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材やグループホームの畑と一緒に収穫した野菜を使用し、出来る方にはお手伝いをお願いしている。食事形態や食器類を利用者様の状態に合わせて変え、使い慣れた食器はそのまま使用していただいている。	利用者の茶碗や箸は、家庭で使用していたものである。また隣接する菜園で利用者と共に野菜作りを楽しんだり、ジャムや漬物作りなど家庭的な食生活を送っている。正月は重箱のおせち料理、春には、桜の下でのお弁当また近隣のレストランでおやつタイム等、季節毎に食事を楽しむための場面作りに工夫が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を基に調理し、食事やおやつ時以外に水分補給する時間を設けている。食事量が少ない方には、高カロリーのジュースやゼリーを摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科に指導をいただき、利用者様に合った口腔ケアを毎食後に行っている。		

グループホームさくらの里（銀杏ユニット・金柑ユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄間隔をみてトイレ誘導を行っている。また、日中と夜間それぞれ緩下剤服用時でパットを使い分けている。	排泄チェック表を記録し、利用者一人ひとりのパターンを把握している。利用者のしぐさから、さりげなくトイレへ誘導している。便秘予防のため、薬の量等を利用者それぞれに調整している。羞恥心に配慮し、女性には同性の職員が介助している。利用者の退院後は、より自立できるようパッド等を使い分けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は利用者様に合った形態で提供し、こまめな水分補給や体操、散歩、リハビリにて適度な運動を行い、それでも排便がない場合は主治医に相談し、緩下剤にて調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制により事故防止の為、おおよその入浴時間帯はホームで設定している。入浴希望の方がおられれば毎日でも入浴は可能。季節感を味わってもらえるように菖蒲湯や柚子湯に入浴していただいている。	週に2回を基準としているが、利用者の希望に応じていつでも可能である。車椅子の利用者には、安全を第一とし、2人介助で支援している。冬場は、脱衣所にヒーターを置き、温度差を少なくする配慮がある。利用者がより安全に浴槽に浸かることができるよう、機械浴の設置を検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に家事のお手伝いや運動をしていただき、生活リズム作りに努めている。安眠できるように居室の室温調整や飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルで管理し、効能効果を把握している。薬セットは3重に確認し、誤薬防止に努めている。薬の変更があった場合は連絡帳で情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴の中から、特技や趣味などを活かせるよう、カラオケや編み物、ドライブを取り入れ気分転換を図っている。また、グループホーム横で野菜を栽培しており、一緒に収穫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、ドライブ、外食など、出来る限り希望にお応えしているが、職員体制により希望に沿えない場合もある	日頃から散歩したり、菜園で野菜を育てている。神社への初詣に始まり、桜、紫陽花、コスモス等の花の名所へ出掛けたりと、年間を通じてドライブの機会が多い。敬老会は、海を臨むレストランを貸し切って開催している。また近隣の道の駅で買い物を楽しむ利用者もあり、戸外に出掛ける機会を積極的に作っていることが窺える。	



グループホームさくらの里（銀杏ユニット・金柑ユニット共通）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理されている利用者様もおられるが、ほとんどの方はホームの金庫にて保管し、必要時に出費している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をお出しする際は職員がお手伝いをしている。ご家族との電話連絡は希望があれば、いつでもお応えしている。ご自分の携帯電話を所持している方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に利用者様が生けた花を飾り、リビングの壁紙は毎月貼り換えをし、季節を感じていただいている。居室を間違われぬように、表札は遠くからでも確認できるように工夫している。	玄関入り口に利用者が生けた花を飾り、リビングや廊下は行事の写真等を掲示している。また、両ユニットに7段の雛飾りを飾るなど、季節感ある空間となっている。洗面台の石鹸類の配置やキッチン、手洗い場の鏡のカーテンなどから、個々の利用者に対応した細やかな工夫が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル椅子以外にソファを、ホーム周辺にはベンチを設置し、共有空間の中に自由に過ごしていただける場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使用されていたタンス、ソファ、仏壇など持ち込み可能となっており、身体機能や生活習慣に合わせて配置している。面会者があった時は、一緒に写真を撮り、居室に飾っている方もおられる。	使い慣れた家具やキーボード、絵画の本、ミシンなど個性があり、自宅を再現しているような居室となっている。面会に訪れた家族との写真を職員が撮影した後、拡大して居室に飾り、家族との絆を深めている。職員は、清掃、空調管理、寝具の交換など清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の維持の為に、出来ることはご自分でしていただけるように、室内やトイレに手すりを設置している。また機能訓練や家事活動での生活リハビリを行っている。		